

CX Cloudリリースノート2025年9月

内容

[概要](#)

[最新情報](#)

[CX Agent v3.1の発表](#)

[HashiCorp Vaultの統合](#)

[RADKit統合](#)

[BCS/LCSの設定](#)

[シードファイルの既定の資格情報](#)

[自動化のための新しいAPI](#)

[自動アップグレードオプション](#)

[シードファイルでのホスト名の使用](#)

[更新されたCXレベル](#)

[不具合](#)

[解消された不具合](#)

[既知の障害](#)

概要

Customer Experience (CX) Cloud はあらゆるアーキテクチャにまたがって、新しいテクノロジーのオンボーディング、最適化、導入の全工程にわたりお客様の成功を実現する SaaS ソリューションです。Cisco Success Tracks サブスクリプションをお持ちのお客様は、以下の機能にアクセスできます。

- コンテキスト学習:Ask the Expert(ATX)ウェビナー、成功のヒント、アクセラレータの取り組み、およびトレーニングを通じて、ネットワークエンジニアおよびアーキテクト向けの最新リソースを提供するコラボレーションインテリジェンスプラットフォームへの窓
- Trusted Support：迅速な技術的問題の解決を支援し、ソフトウェアおよびソリューションレベルで予防的かつ規範的なサービスオプションを取得します。
- 洞察と分析：予防的かつ予測的な洞察を提供し、お客様が潜在的な問題を認識し、運用を最適化し、テクノロジーの導入と移行を加速するのに役立つデジタルインテリジェンスツール
- エキスパートリソース：利用可能なすべてのアーキテクチャとシスコ製品をワンストップで提供。詳細な設計と検証に関する戦略的なエキスパートアドバイスや、業界固有のソリューションにアクセスできます。

このドキュメントでは、CX Cloudの新機能、解決された不具合、および既知の問題について説明します。この[リンク](#)を使用して、CX Cloudにアクセスし、CCOクレデンシャルでログインします。

最新情報

このセクションのリリースノートでは、2025年9月のリリースの一部として有効になる予定の機

能について詳しく説明します。

CX Agent v3.1の発表

CX Agent v3.1がリリースされました。この最新リリースでは、統合と使いやすさを向上させる新機能と拡張機能が導入されています。CX Agent v3.1は、バージョンv2.4およびv2.4.1からのシームレスなアップグレードをサポートしており、信頼性の高い効率的な最新リリースへの移行を実現します。現在、v2.2やv2.3などの以前のバージョンを使用しているユーザは、v3.1にアップグレードする前に、バージョンv2.4やv2.4.1にアップグレードできます。v3.1の主な機能は次のとおりです。

HashiCorp Vaultの統合

CX Cloudポータルまたはコマンドラインインターフェイス(CLI)からアクセス可能なオプションのVaultインテグレーションを使用して、機密情報の安全な保存と管理が可能になりました。

RADKit統合

RADKitクライアントは、CLIを使用して既存のCXエージェントとともにオプションで導入できるようになりました。このクライアントには次のようなメリットがあります。

- 迅速な問題解決のためのトラブルシューティング
- 規模に応じた自動化のためのカスタマイズされたスクリプト

BCS/LCSの設定

CX Agentは、ビジネス・クリティカルなサービスおよびライフサイクル・サービス(BCS/LCS)用に構成できるようになりました。この構成には、次のようなメリットがあります。

- SolarWinds®をCX Cloudのデータソースとして追加できるようになりました
- CX Agentは、SolarWinds®およびCisco Catalyst Centerとの直接統合をサポート
- 次の情報とレポートを生成できます。
 - 構成のベストプラクティス
 - Field Noticeチェック
 - ハードウェアライフサイクルマイルストーンチェック
 - 製品セキュリティアドバイザリお客様への影響
 - リスク軽減レポート
 - ソフトウェア分析およびリリース標準
 - ソフトウェア管理戦略レポート
 - Syslog 分析
 - ポリシーの変動分析
 - デザインビルダ
 - 拡張性の洞察
 - 構成管理の洞察

シードファイルの既定の資格情報

CX Agentは、構成済みのローカルHashiCorp資格情報コンテナに保存されている資格情報を使用するため、シードファイルに機密パスワードを直接含める必要がなくなります。

自動化のための新しいAPI

新しいAPIにより、シードファイルとお客様またはサードパーティ製のインベントリ管理システムやデータベースとの同期が自動化されるため、CXエージェントシードファイルインベントリを常に最新の状態に保つことができ、手動アップロードによるメンテナンスの問題が解消されます。

自動アップグレードオプション

お客様は、CXエージェントをサポートされている最新バージョンに自動的にアップグレードできます。このアップグレードにより、新しい機能、拡張機能、および不具合の修正が提供されると同時に、手動によるメンテナンス作業が不要になり、セキュリティの脆弱性を未然に防ぐことができます。

シードファイルでのホスト名の使用

CX Agentは、シード・ファイル内のIPアドレスではなくホスト名の使用をサポートし、ネットワークの監視とレポート作成をサポートするようになりました。

これらの機能のガイダンスと詳細については、「[CXエージェント概要ガイド](#)」を参照してください。

更新されたCXレベル

CX Cloudのレベル (Base L0、Level 1、Level 2など) の名前が、それぞれStandard、Enhanced、Signatureに変更されました。デモアカウントのユーザを含むすべてのCX Cloudユーザは、Assets & CoverageのCX Level列の下に、これらの更新されたラベルを表示できるようになりました。

不具合

解消された不具合

このリリースの一部として報告する解決済みの不具合はありません。

既知の障害

このリリースの一部として報告する既知の不具合はありません。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。